

安下庄小学校児童が「シイタケのコマ打ち」を体験しました！

令和7年1月17日(金曜日)に周防大島町立安下庄小学校において、3、4年生の児童6名を対象とした森林体験学習が実施されました。

これは、次代を担う子どもたちに、ふるさとの森林の大切さや林業の重要性を体感し、理解を深めてもらうために、林業研究グループ「柳井ふれあい森の会」(会長:山重 義則)が行ったものです。

はじめに、柳井ふれあい森の会の山重会長から、森林の果たす役割について、クイズ形式で児童に質問をしながら、心が安らぎ、雨水を蓄え、土砂崩れを防ぎ、木材の材料になり、CO2を吸収・酸素を供給し、動物のすみかになり、きのこなどの森の恵みもあり、林業に従事する人の働く場所にもなることについて話をしました。

その後、3班に分かれて、シイタケのコマ打ち体験を行い、児童は林研会員に指導してもらいながら、電動ドリルでクヌギの原木に一定の間隔で穴を開け、その穴にシイタケの種ゴマを木づちを使って打ち込みました。児童は集中して打ち込み作業を行っていました。

種ゴマを打ち込んだほだ木は、児童が学校の体育館裏の木陰に運び、伏せ込みました。

最後に、ヒノキの間伐材を使った丸太切り体験を行いました。のこぎりで小径木を切るのに挑戦しましたが、なかなかのこぎりが進まず苦戦していました。がんばって切った端材は、切り口に穴を開けてペン立てに加工してもらい、ヒノキのいい匂いがすると喜んでいました。

柳井ふれあい森の会では、今後も森林体験学習を継続し、地域の子どものための森林に対する意識を高める取組を行うこととしています。



森林のはたらきとシイタケ栽培について



シイタケのコマ打ち



ほだ木の伏せ込み



丸太切り体験